



Title	六十の手習い
Author(s)	志賀, 周二郎
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1995, 98, p. 48-49
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66125
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

新居浜高等専門学校

志賀 周二郎

パソコンでのシミュレーションが限界に来た。PENTIUM登載の最新式でも1データに100日かかる計算になる場合がある。CPUのメモリーを節約しても実行時にメモリー不足の警告と共にダウンする場合が出る。ついに決心してスーパーコンピュータの門を叩いた。電話線経由で繋ぐのである。

登録して資料を山のように頂戴し、マニュアルの購入伝票を書く。初めは順調にアクセスできていたが、ACOSからSXに移る段になって行き詰まる。マニュアル「スーパーコンピュータ利用の手引き('93)」通りに行かぬのである。これ以上簡単にはできぬというプログラムを作ってACOSに送り付け、ACOSから基本形でSXを操るのだが、さっぱり反応しない。マニュアルには操作法例題が幾通りか書いてあったので、全部を一字ずつ忠実に繰り返しチェックし追いかけるのだが、全く応えてくれぬ。今までにない挫折感を味わった。ふとニュース誌からプログラム相談制度があるのに気付いた。

人見知りする方だからと後込みしてはどうにもならんと、勇を奮って片っ端から電話する。なかなか都合良く捕まらないのである。初めて捕まえた先生はしかしご多忙のようであった。二人目の藤本先生は突然の見も知りもせぬ風来坊に全く懇切丁寧であった。

マニュアルが間違っていたのである。あとの勉強でUNIX C-シェルのSX-3RにB-シェル用語を混ぜて例文を書いていることが分かった。念のためにセンターに確認をいれる。驚いたのは藤本先生もセンターもマニュアルの例題の誤りは知っておられたことである。

私は化学会社で長年勤務した。爆発事故でもあったら警察は先ずマニュアルを調べる。手が後ろに回るのが怖いからではなく、我々自身の安全のためにマニュアルの整備は工場運転の基本であった。だからマニュアルだけは信頼性抜群の書類であった。私はマニュアル過信症であったのか。し

かし実物にお目に掛かったことは一度もなく、人的つながりも持たない僻地の研究者として、マニュアル以外に頼れるものがあるだろうか。あと1年余りになった現役でおれる期間のこの半月ほどは全くもったいないと残念である。マニュアルは作られてから2年以上経過しているのである。ミスが分かっていたのである。

悩んだ入り口の話をもう一つ。端末パソコンとのファイルのやりとりの問題である。お薦めのソフトからETGを選んだのはその取扱いドキュメントが平易だったからである。私はパソコン通信でフリーソフトのWTERMに馴れているので、センターとの対話にはこれを使い、ファイルはETGという組み合わせで始まった。しかし使うほどETGの使いにくさが目立つ。なにしろWTERMには大手パソコンネットにフォーラムがあって日常的にガヤガヤワイワイと改造している。だから非常に便利に広範囲に使えるように仕上がっている。CASの文献検索もWTERMで上等なのである。そこでWTERMに乗り換える工夫を試みた。

ファイル送信は、ACOS上にサブシステムFRT77を呼出しNEWファイル作成待ちの状態にしておいてから、WTERMから所定のファイルを転送する。これは画面で出てきたファイル一覧表の内から目的ファイルを選び、RETURN KEYを押すだけの簡単な操作である。終わったらSAVEファイル名として保存する。パソコンで修正した同名のファイルをACOS上に保存するには最後にRESAとする点だけが違っている。計算結果を見るにはLIST結果ファイル名でよい。WTERMには自動記録機能があるから会話の一部始終を記録しているので、ラインオフの後ゆっくりファイル整理をすれば良い。この工夫のおかげでファイルと会話を切り放す不経済を免れることができた。この手は皆様に推奨してよいと思う。ただしWTERMとACOSの関係はテキストファイルだけの縁である。バイナリではプロトコルが合わないと言う。

今ではWTERMは有力な標準ソフトです。ローカルな特殊ソフトでは改良もまま成らず、いつか消えて、全体のデメリットになります。WTERMをバイナリ用途にも取り込む方策はないのでしょうか。化屋では分かりません。どなたかお答え下さい。